日本歴史地理學會に於ける講演の速記で、附錄の形として收められてゐる。第一部の完成された日本群島論の基盤をわれ〳〵はここに見出し得るのである。

之を要するに、本書は中絶した草稿や、項目を異にした寄稿論文の集成等を以て夫々各部が形作られてゐる關係上、全體として稍〻物足りない感じを受け、又他面我が國が不幸にも明治維新前の國土に縮小されて、ために現在では妥當しない個所の散見するのは殘念ではあるが、然しそれ等は勿論本書の價値を損ひ減するものではない。博士の先覺者としての炯眼は昭和の初年既によく我が日本の世界に於ける地理的姿相を確固と把握し、帝國内、各地方の特殊性を巧妙に指示してゐられるのであり、十數年を經過してなほ光彩を放つてゐるのである。愼しくも身邊の反省が要請され、祖國への凝視が必要な今日、地理的知識の大衆化を目論まれた博士の意圖のまに〳〵廣く本書の閲讀されん事を祈つて止まない。（昭和十九年九月、弘文堂書房刊、A5版、三七二頁、賣價七圓參拾五錢）（岡本信太郎）

J. G. Andersson ; Researches into the Prehistory of the Chinese. (Stockholm, 1943)

一九二〇年代の前半に行はれた瑞典アンダーソン教授の支那史前遺跡の學術發掘が東亞考古學發達の上に劃期的なものとして、爾後の自覺しい支那史前文物の研究に學術上の基準を與へたことは著名な事實である。右の調査の結果に就いては當時『中華遠古之文化』『甘肅考古記』などの略報告が相次いで公にせられ、更に一般向に書かれたChildren of the Yellow Earth (London, 1934)なる概觀書なども世に出て、その後者は『黄土地帶』なる書名の邦譯が現はれて廣く世に知られてゐる。供し以上の刊行物は孰れも云はゞ豫報的な性質を出でないものであるので、調査の示す重要性の上から調査者が公約してゐるより詳細な事實の記載を主とする報告書の公刊が學界からは期待された次第である。然るに支那事變以後の世界の動きはその實現に支障を來し、その間アンダーソン教授の隱退の事などあつて二十年の歲月を經過した間に僅かにアルネ、パームグレン兩氏の手になる出版物を見たのみで當の教授の報告に接し得なかつたのは吾々の深く憾とした所である。されば教授の後を繼いだカールグレン教授の配慮に依つて、瑞典東洋美術博物館紀要の第十五册として嚮に表題の書の公刊を見るに至つたのは、右の點からまことに欣ばしい次第である。

この書はB5版本文三百頁に多數の挿圖を載せ、更に後半に二百頁の鮮明な圖版を添へると云ふ豐富な内容のものであつて、一見直ちに從來の遺憾をいやし、教授調査の重要性を今更ながら強く意識せしめるものがある。但し教授自身が表明してゐる如く、これも實は本格的な研究報告ではなくて、一應の中間報告とも云はる可きであり、引いて文中の所々に見える一々の一層詳しいそれの公刊が改めて待望されるわけである。併し前年ストックホルムの滯在中出土品のすべてを通觀すると云ふ稀な幸を持ち得た紹介者の所見からすると、この册所收の圖版には教授の得た主要な

遺品が殆んど漏れなく掲げられて居て、而もうちに從來全く利用し得なかつた重要なものが公開せられるに至つたことから、この書に依つて支那の史前研究に一つの新しい基準が示されたとも云ひ得ると思ふ。なほ本文の記述にあつても、その結構は大體 Children of the Yellow Earth に似てはゐるが、確實な實測圖を挿んで記述が適確の度を加へた點をも擧ぐ可きであり、更に爾後の支那考古學の進運に伴ひ教授が隨所に既往の所見を再檢討の上見解を新たにしてゐる點が注意される。その意味からすると本書は教授の調査を通じての現時の支那史前文化の概觀とも云ふべき面を持つたものとせられる。教授が最初の河南仰韶の發掘に於いてなほ適確にその特色を把握するに至らなかつた同地出土の黑陶をばその後の知見に依つて明確にしてゐることや、爾後の中國學者なり日本學徒の滿蒙に於ける業績をば自己の發見品と結びつけて年代觀なりその他の性質を論じてゐる點などは、右の一部分として是等の上にいろ〳〵と新しい見解が認められるのである。この點は教授の最初の所見がそのまゝ殆んど無批判に受け容れられて現在なほ一般に行はれてゐる我が學界の舊態依然たるに對し、深き反省と共に特に本書の通讀が要請せられる次第である。

たゞ左樣な記述の間にあつて博士が當初提出せられた甘肅の出土品を中心とする所謂史前文物の六期說に對しては、それが極めて不充分な基準の上に立つ所から學界の一部に批判が現はれてゐるにもかゝはらず、どうした事か何等の再檢討を加へることなく、恰も既定の事實の如く取扱はれてゐるのは、記述を通じて新たに右の組立ての上に地理的な背景の考慮せられてゐることが推される所はあるとは云ひ乍ら、異樣に感ぜられる所である。それは兎も角として東亞の天地に幾年振りにか再び平和の訪れた今日、この書はまさに再出發するであらう支那中原の古文化研究の新たな目安を與へるものとして、所揭の遺物類の眞の姿の把握の行はれるべきことに期待がかけられるのである。（丸善取次發賣、價瑞典六十クラウン）（梅原末治）

彙報

史學科新學期の講義

終戰に伴ふ勤勞動員學生の復歸、出陣學徒の復員に依り十月十一日から新學期の講義が開始せられた。明年三月までの講義の題目は次の如くである。

國史	西田教授	○國史概說　第一部	毎週　二
	中村助教授	○國史概說　第二部	二
	西田教授	（演習）平安時代の文化とその後代への影響	二
	中村助教授	日本古文書學	一
	藤助教授	中世の社會・文化	二
	〃	（實習）時代精神と歷史意識	二
	柴田講師	近世の社會とその思想	二
	東伏見講師	飛鳥奈良時代の研究	二
	赤松講師	中世史料の研究	二